

シオンの組織および会員

(2) (シオン修道会) グランド・マスターたち

12世紀、最初のグランドマスター、ノルマンディーのジャン・ド・ジゾールは、名前をジーン II 世と名乗り、こう問いかけました。「では、ジーン I 世は誰であったか？」彼らは数人の候補として、「**洗礼者ヨハネ**、福音記者のヨハネ、黙示録著者のヨハネ」の名をあげ、この話題をうち切った。

- Lynn Picknett & Clive Prince, Turin Shroud - In Whose Image? The Shocking Truth Unveiled

この継続性（総長の任を継いだ者がジャンと名乗ること）は明らかにヨハネに由来する秘儀や、ヘルメス思想的な教皇権を**意図したものであり**、その対比として（おそらく対抗として）正教のペトロがいる。

- Baigent, Leigh and Lincoln, The Holy Blood and the Holy Grail

初代テンプル騎士団グランドマスターであるユーク・ド・パイヤンは、洗礼者ヨハネを預言者とする分派ヨハネ派の会員であったと言われる。「秘密文書」によると、**シオン修道会のグランドマスターには代々ジャン（おそらく教皇ヨハネス 23 世の名に影響したであろう）という名前が引き継がれた。**グランドマスターの名簿中、レオナルド・ダ・ヴィンチは洗礼者ヨハネに強い興味をもっていたし、もう一人、アイザック・ニュートン卿は、当時福音書著者ヨハネが作者とされていた、黙示録に熱中していた。

（「[レンヌ・ル・シャトーの謎](#)」）

※この記述により、初代「シオン修道会」総長のジャン・ド・ジゾールは自らを2代目の総長と名乗り、初代の座を別に空けていたこと、そしてその初代総長に座すのは「洗礼者ヨハネ、福音記者のヨハネ、黙示録著者のヨハネ」のいずれかのヨハネだと煙に巻いたのが分かります。彼らはそれを公言できなかったのです。しかし記事の下部で**テンプル騎士団の初代総長ユーク・ド・パイヤンがヨハネ派会員だったこと**などから空席となっている「**シオン修道会の初代総長**」の座に座す人物は**洗礼者ヨハネであるのは明白です**。**シオン修道会にしてもテンプル騎士団にしても崇拜信仰の対象は洗礼者ヨハネでありイエスではないのです**。そして**彼らが実行していたのが性錬金術**に他ならないでしょう。性錬金術と洗礼者ヨハネを通して見ないとシオン修道会、テンプル騎士団の姿は見てこないのです。**このことは同様に薔薇十字団とフリーメーソンにも当てはまります。**